

2018(平成 30)年度中体連陸上競技全道申し合わせ事項

<競技運営に関すること>

1. 9レーンがある競技場の場合、これを有効に活用する。
レーン数が不足する場合は、同記録の写真をより細かく優劣を判定して進出者を決める。それでも決められない場合は抽選とする。決勝進出者を決める場合も同様とする。
2. リレーの選手の変更について
1日目にリレーのオーダーを提出後、2日目に変更を希望する場合は、特に理由を聞かずに変更を認める。ただし、リレーのオーダー提出時間内であること。
3. ユニフォームについて
 - ・リレーにおいて同一色のユニフォームを着ること。統一されていない場合は失格もあり得る。
(抗議があった場合)
 - ・ランニングパンツの下からはみ出るようなスパッツ等の着用は禁止する。ハーフパンツやスパッツのみを着用すること。
4. クラブチームのユニフォームの着用について
学校代表であるので、各中学校のユニフォームを着用すること。
5. 四種競技について、最終種目における組み合わせは、それまでの得点の多い競技で1つの組を作成する。
6. 抗議は、各地区専門委員長を通して行う。該当の学校の監督が直接行うことはしない。地区専門委員長が不在の場合は代理の者が行う。
7. VTRによる抗議は原則として受け付けない。
8. 棒高跳において、競技開始後1時間45分経過しても試技を行っていないものについては、1時間45分経過後、新たにあげられたバーの高さで助走練習の時間を設ける。

<大会参加資格に関すること>

1. 地区1位の代表が辞退した場合は、2位以下の繰り上げ出場はしない。地区1位で参加する場合は、番組編成のため地区大会、通信大会ともに記録を入力する。
2. 地区大会で学年別種目がある場合、地区1位の参加については各地区で申し合わせること。
(同一種目で、地区1位が学年ごとにいないこと)
3. 四種競技において各種目の標準記録を破っても、単独では出場できない。
4. 地区中体連の大会で公認グラウンドのない地区の場合も、標準記録を突破した場合、または地区1位も出場を認める。(宗谷地区他)。
⇒競技場の改修・地区の事情により大会を公認グラウンドで行えない場合。
※全国大会の指定大会(四種競技)は、全国の出場は不可
5. フィールドがタータン、トラックが土の場合、四種競技の標準記録はシンダー用の記録を適用する。
6. 再レースで標準記録を突破した場合は出場可とする。(全国大会についても同様)
7. 順位決定戦で標準記録を突破した場合は出場可とする。(全国大会についても同様)
8. リレーの選手登録及び参加については、全道大会の予選会となる大会(通信陸上大会又は各地区中体連大会)の参加申し込みの時点で、当該学校に在籍している生徒とする。
9. 地区中体連合同開催の場合の地区1位のおさえ
 - ①基本的には、合同開催をしても地区1位は該当地区から選ぶ。
 - ②合同開催を行った地区には、全道大会参加書類に地区1位報告用紙の提出を義務付ける。
(地区委員長が作成する)
 - ③地区1位の選出については、地区の専門委員会で協議し、参加校に周知徹底する。
⇒地区合同大会に出場した選手より選出する。
10. リレー競技については、全道大会申込後に他競技での全道大会出場が決定し、チームが編成できなくなった場合に限り、選手の入れ替えを認める。その場合、該当選手が他競技に出場することがわかる証明書(参加申込書等)を添えて、大会事務局に早急に任意の書式を提出すること。